

【1ZF-1202】リテラシー向上を目指した市民の震災後の環境リスクの認知構造とその変化に関する研究

(H24～H25；累計予算額 29,727千円)

村山 留美子（神戸大学）

1. 研究実施体制

- (1) リテラシー向上に資する基礎資料作成のための市民のリスク認知に関する調査研究（神戸大学）
- (2) 最新のリスク認知に関する知見とリテラシー向上に資する情報の検討（(財)ルイ・パストゥール医学研究センター）
- (3) 震災後の環境リスクの社会的なあり方の現状についての解析（大阪産業大学）
- (4) 市民の震災後の環境リスク認知の構造とその変化に関する調査と解析（武庫川女子大学）

2. 研究開発目的

震災後の日本人のリスク認知の現状と、震災による認知の客観的な変化およびその変化要件に関する調査等を行い、今後の日本人のリスクリテラシー向上やよりよいリスクコミュニケーションの実施に資する基礎的データの集積を行うことを目的とする。

3. 本研究により得られた主な成果（研究者による記載）

(1) 科学的意義

これまでに、大規模災害や事故の前後において日本人のリスクに対する意識全体の変動を詳細に観察した例は少ない。本研究において震災前後のリスクに関する各種認知に変動に関する検討を行った結果、変動が認められたのは、放射線や発電所など福島第一原子力発電所に係わる項目のみであり、それとは無関係と考えられる一般的なリスクに係わる市民の認識全体に震災や原子力発電所の事故が大きな影響を与えている様子は観察されなかった。従って、東日本大震災は未曾有の大災害であったが、これによって日本人のリスク認知の全体像が大きな変動をしていないなど、これまで明らかになっていなかった変動が明らかになった。一方で、原子力発電所に対しては、その認識に大きな変動が認められ、特に安全性が十分でないという回答した人や、自分や家族に対して危険があると回答した人の割合が大きく増加した。ただし、原子力発電所から恩恵を受けているとの認識や、生活に必要なものであるとの認識は震災前後で大きな変動は見られなかった。原子力発電所から受ける恩恵やその必要性に対する意識が、安全性や危険性の大きな変動に連動する様子は見られず、市民が安全性や危険についての判断と恩恵等についての判断を切り分けて行っていることなど、リスクに対する各種判断の現状が確認された。

また、市民のリスクに対する行動について、特に震災・原発事故後の情報収集においては、放射線や原子力発電所についての関心が非常に高い一方で、自ら情報を収集すると回答した人の割

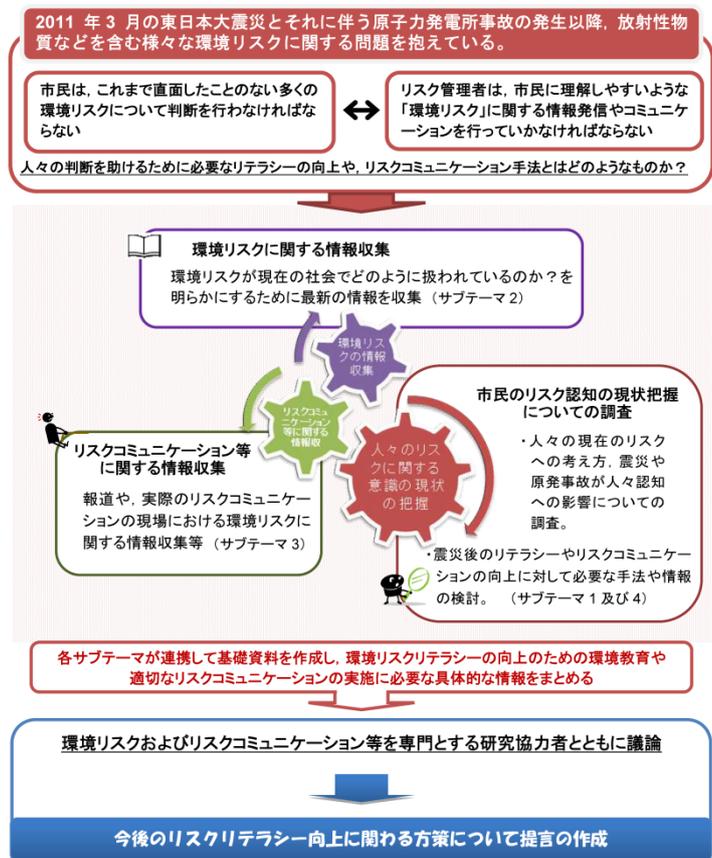


図 研究のイメージ

合が低いことを明らかにし、さらに情報取得に対する利用するメディアによる効果や情報取得を行わない人の条件等について明らかにして、これまで明らかになっていなかった健康リスクに対する情報取得の状況とその条件について明らかにした。さらに、全国調査の結果からは取得できない被災地域在住者や自主避難者のリスクに対する姿勢を明らかにするためにインタビュー調査を実施し、その具体像について明らかにするとともに、被災地域のコミュニティにおける現状での問題点を指摘した。

(2) 環境政策への貢献

<行政が既に活用した成果>

特に記載すべき事項はない。

<行政が活用することが見込まれる成果>

全国の成人を対象とした調査において、これまでに既に行われているリスクベースの規制基準にも関わるリスク意識全体の変動について、東日本大震災が市民のリスクに関する各種認知に対しそれを大きく変動させるような影響を与えていないことを確認した。また、現在コミュニケーションが必要になっている原子力発電所について、少なくとも震災前と比較した場合に、生活への必要性や恩恵の有無に関する判断は震災前と変わっておらず、震災後に市民が問題視しているのはその安全性や危険の認知であることを明らかにし、リスクコミュニケーションの要点を明らかにした。さらに、原子力発電所や放射線についての市民の関心の高さを明らかにした一方で、それらに対して積極的な情報収集行動を行っている人は少なく、その情報取得状況が良くないことを明らかにした。情報収集に関しては使用するメディアにより情報取得状況が異なることや、そもそも情報収集についての習慣がない、あるいは情報収集の手段が分からないために情報収集を行わない市民が多いことを明らかにし、今後のリスクリテラシーの向上のための要点を明らかにした。

4. 委員の指摘及び提言概要

インタビュー、面接、文献等による調査結果そのものを公表するだけでは環境行政ニーズ研究が求める成果とは言えない。結果を踏まえたうえで、(例えば)環境リスクも含む環境全般に対する啓発活動として、初等・中等教育課程および成人・生涯教育活動の中で「どのような手法で」、「どのような内容を」伝えるなどといった具体的な提案をして貰いたかった。リスク認知に関する動向はおおむね明らかになったものの、リテラシー向上策に資するかが明確に示されると良かった。

5. 評点

総合評点：B

